OLYMPUS

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2丁目3番1号　新宿モノリス

製品に関するお問い合わせ先

フリーダイヤル
0120-084215

携帯電話・PHSからは
0426-42-7499

FAXからは　0426-42-7486

◎ オリンパスカスタマーサポートセンター ◎

営業時間　平　日　9：30〜21：00
土・日・祝日　10：00〜18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

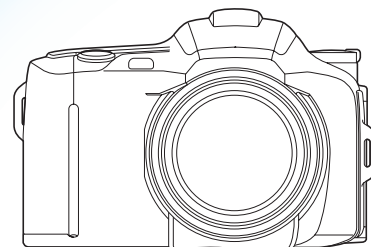
〈TEL〉
0266-26-0330

〈FAX〉
0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3-15-1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間　9：00〜17：00
（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

CS0716000000–②　A0803

OLYMPUS

L-5

J 使用説明書

・ご使用前にこの使用説明書をお読みください。
・大切な写真（海外旅行など）をお撮りになる前には、試し撮りすることをおすすめします。

安全に正しくお使いいただくために

このたびは、L-5をお買い上げいただき、ありがとうございます。

・ご使用前にこの使用説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。またお読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。

・この製品は写真撮影のためのものです。撮影以外の目的に使用しないでください。

・安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、必ず守ってください。

・表示の意味は、次のようになっています。

表示	意味
⚠警告	この表示は、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠注意	この表示は、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。
⃠	この記号は、禁止(してはいけないこと)を示します。図または文章で具体的な禁止内容を示します。
❶	この記号、または絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容を表しています。❶の中の絵表示や文章で具体的な強制内容を示します。

電池について

⃠ この製品で指定されていない電池を使わないでください。

⃠ 充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しないでください。

⃠ 火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしないでください。

⃠ 電池の極性(⊕と⊖)を逆に入れないでください。

電池は、液漏れ、発熱、発火、破裂する恐れがあります。

⃠ 古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池を使わないでください。

⃠ 電池は幼児・子供の手の届くところに置かないでください。

電池は幼児・子供が飲み込む恐れがあります。

万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

・表面の被覆の破れた電池を使わないでください。

・長期間使用しない時は、必ず電池を取り出して保管してください。

・一般廃棄物として各自治体の指示に従って処理してください。

本機について

❶ 万一、使用中に変な音、熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、

①火傷に注意しながら速やかに電池を抜いてください。

②お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。

放置すると火災や火傷の原因となります。

❶ 落下や損傷により内部が露出したら、

①露出した内部に絶対触れないでください。

②感電、火傷、ケガに注意し、直ちに電池を抜いてください。

③お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。

内部高電圧回路による感電、ケガ、火傷の恐れがあります。

⃠ 分解、修理、改造をしないでください。

内部高電圧回路による感電やケガの恐れがあります。

❶ 水に落としたり、内部に水、金属、燃えやすい異物が入ったら、

①速やかに電池を抜いてください。

②お買い上げ店またはオリンパス岡谷修理センターへ修理に出してください。

そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⃠ 製品を濡らさないでください。また濡れた手で触れないでください。

感電の原因となります。

⃠ 引火性ガスや物質(ガソリン、ベンジン、シンナー等)の近くで使用しないでください。

爆発や火災、火傷の原因となります。

⃠ ファインダーを通して太陽や強い光源を見ないでください。

失明の恐れがあります。

フラッシュ・その他

⚠警告

⦸ フラッシュ発光部に皮膚や物を密着させて発光しないでください。
またフラッシュ連続発光後、フラッシュ部分に触れないでください。
　熱くなる場合があります。

⚠注意

⦸ フラッシュ光により短時間視界が妨げられることがあります。
たとえば、下記の様なことはしないでください。
例：①フラッシュを人や動物の目の前で発光
　　②フラッシュを運転者に向けて発光
　・本機は暗い時には自動的にフラッシュが発光しますのでご注意ください。

⚠警告

⦸ この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。
また幼児、子供の近くで使用する時は、細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児、子供には安全警告・注意の内容が理解できませんし、加えて以下の様な事故の恐れがあります。
例：①誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こすことがあります。
　　②操作を誤りケガや感電事故等を起こすことがあります。

⦸ カメラを操作しながら、他のことをしないでください。
例：車両の運転、ファインダーを覗きながらの移動など。

主な特長

- ■特殊低分散（ED）ガラス採用の28mm～140mmまでの5倍のズームレンズを内蔵。幅広い撮影領域が楽しめます。
- ■大光量ツインフラッシュ採用により、より遠くまでフラッシュ撮影が可能です。
- ■一眼レフファインダーによって、見たままの映像を写真に残せます。
- ■イメージセレクトボタンで、撮影目的に合った露出モードが簡単に選べます。
- ■露出補正機能によって明るさの調節が可能です。
- ■動体予測AFにより、動くものにもピントが合わせられます。
- ■露出モードは撮影目的によって、絞り優先オート、シャッタースピード優先オート、マニュアル露出を選べます。
- ■スーパーFP発光により、1/2000秒までフラッシュが同調します。
- ■蛍光灯による変色を防ぐためフラッシュが自動的に発光します。

この使用説明書には以下のような記号が使われています。

・説明文中の　　　内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
・本文中のイラストは、実際の製品と異なる場合があります。

目　次

撮影の準備をしましょう

撮影しましょう

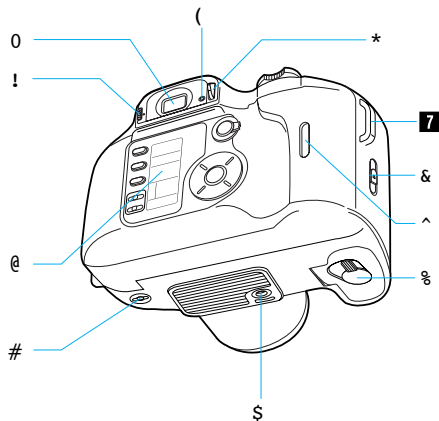
さまざまな機能を使ってみましょう

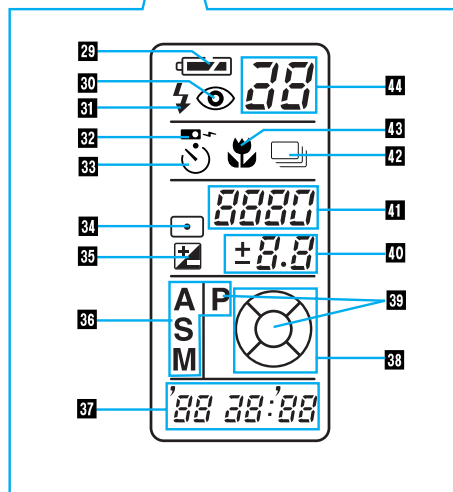
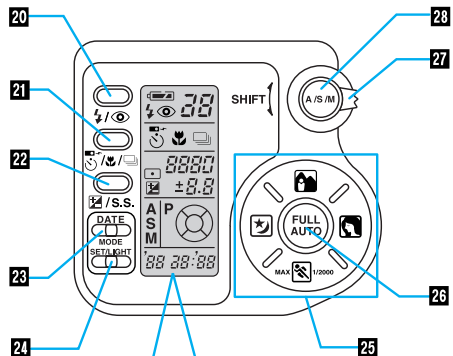
より良い写真を撮るために

その他

各部の名称【本体】

☆部は汚さないようご注意ください。
（☆部の汚れはピンボケや不鮮明な写真の原因になります。やわらかい布でよく拭き取ってください。）

1 ズームボタン (P.22,54) ･･･**撮影領域（28mm～140mm）を決めます。**
2 スポットボタン (P.45)･･･**画面中心部の明るさを測光します。**
3 シャッターボタン (P.19) ･･･**シャッターを切ります。**
4 セルフタイマーシグナル (P.46) ／リモコンセンサー (P.47)
　･･･**セルフタイマー撮影時点滅、リモコン撮影時の受信部です。**
5 レンズ
6 鏡筒
7 ストラップ取付部 (P.13)
8 フラッシュ (P.27)
　･･･**フラッシュ撮影時ポップアップさせてください。**
9 パワースイッチ／フラッシュポップアップスイッチ(P.16,27)
　･･･**電源ON/OFFとフラッシュをポップアップさせます。**

10 ファインダー (P.12)･･･**撮影範囲を決めます。**
11 視度調節ダイヤル (P.14)
　･･･**ファインダーの視度を自分に合わせます。**
12 液晶パネル (P.10)
13 途中巻き戻しボタン (P.25)
　･･･**フィルム終了前の巻き戻しに使用します。**
14 三脚穴･･･**三脚を取付けるネジ部です。**
15 電池ぶた (P.15)
16 フイルム確認窓･･･**フィルムの種類と感度が確認できます。**
17 裏ぶた開放ノブ (P.20) ･･･**フィルムを出し入れする時に使用します。**
18 パノラマ切替えレバー (P.26)
　･･･**標準撮影とパノラマ撮影を切替えます。**
19 パノラマ確認ランプ (P.26)
　･･･**パノラマ撮影に切替え時点灯します。**

各部の名称【本体】【液晶パネル】

20 フラッシュモード切替えボタン (P.27)
…フラッシュポップアップ時にフラッシュのオート発光、赤目軽減発光、強制発光の切替えに使用します。

21 リモコン (P.47)/セルフタイマー (P.46)/マクロ(P.48)/連続撮影 (P.49)切替えボタン
…それぞれの撮影に切替えます。

22 露出補正 (P.43)/マニュアル露出<**36**がMの時シャッタースピード切替え> (P.40)切替えボタン
…カメラが決定した適正露出を自分の好みに合わせて調整できます。**27**と同時に使用します。

23 日付写し込み選択ボタン (P.52)

24 日付あわせ (P.51)/液晶パネル照明ボタン(P.53)

25 イメージセレクトボタン (P.32)
…撮影目的に応じた適正露出をカメラが調整してくれます。

26 FULL AUTO（プログラムオート）ボタン (P.22,50)
…標準的な撮影をします。いろいろな撮影、操作の後に標準撮影に復帰できます。

27 シフトレバー (P.38,39,40,44)

28 露出モードボタン (P.37)
…プログラムオート【P】/絞り優先オート【A】/シャッタースピード優先【S】/マニュアル露出【M】を決めます。**22**を使う前に選択します。

---

29 電池残量 (P.15)
30 赤目軽減 (P.30)
31 強制発光 (P.31)
32 リモコン (P.47)
33 セルフタイマー (P.46)
34 スポット測光 (P.45)
35 露出補正 (P.43)
36 露出モード (P.37)
37 日付 (P.51)
38 イメージセレクト (P.32)
39 プログラムオート（FULL AUTO）(P.50)
40 絞り値/露出補正値 (P.38)
41 シャッタースピード (P.39)
42 連続撮影 (P.49)
43 マクロ撮影 (P.48)
44 フィルムコマ数 (P.21)

各部の名称【ファインダー】

標準撮影時

パノラマ撮影時

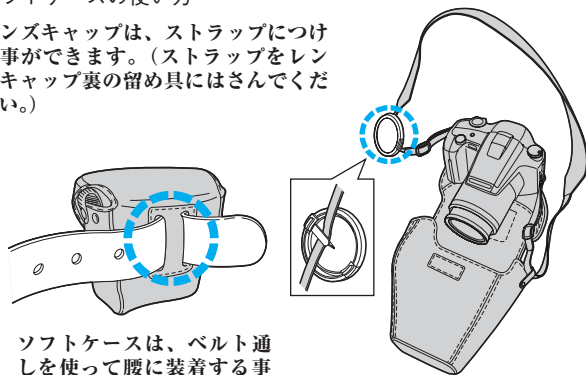
45 オートフォーカスフレーム (P.23)
…ピントを合わせたいものに合わせます。
46 スポットフレーム (P.45)…スポット測光したい所に合わせます。
47 パノラマ指標 (P.26)
…青い部分が撮影範囲<実際には青くありません>
48 合焦マーク (P.23)
…点灯時ピントが合っています。点滅時ピントは合っていません。
49 マクロ (P.48)
50 フラッシュ (P.27)
…点灯時フラッシュが光ります。点滅時充電中です。
フラッシュをポップアップしていない時の点滅はカメラぶれの警告です。フラッシュをポップアップしてください。
51 シャッタースピード (P.39)
52 絞り値 (P.38)
53 スポット測光 (P.45)…スポット測光の時、点灯します。
54～58 (P.40,44)
…①マニュアル露出時の適正露出、オーバー、アンダーの表示。
②露出補正を行った時の補正値の表示。

ストラップ・ソフトケースの使い方

●ストラップの取りつけ方

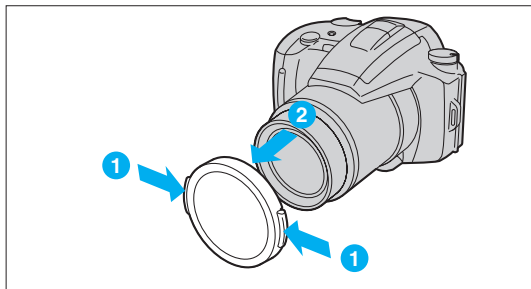
ストラップは止め具にしっかりと止めてください。

●ソフトケースの使い方

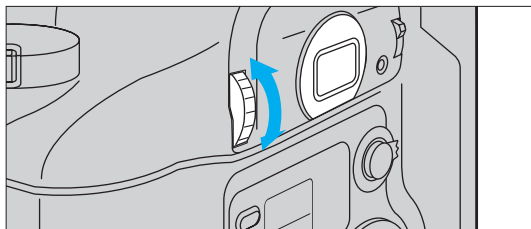
レンズキャップは、ストラップにつける事ができます。（ストラップをレンズキャップ裏の留め具にはさんでください。）

ソフトケースは、ベルト通しを使って腰に装着する事もできます。

リモコンをソフトケース内側のポケットに収納できます。

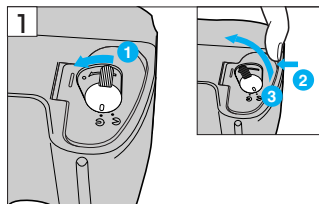
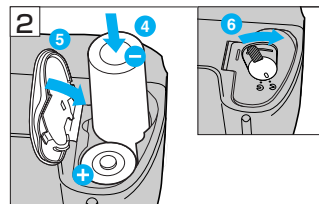
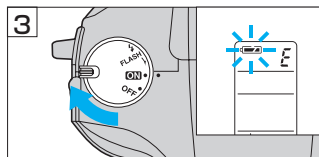
レンズキャップをはずします

撮影前には必ずレンズキャップをはずしてください。

レンズキャップ突起部分を押し込みながら①、鏡筒からキャップをはずします。②

ファインダーの視度を合わせます【ファインダーを見やすくします】

ファインダーをのぞきながら、オートフォーカスフレームが鮮明に見える位置へ視度調節ダイヤルを動かします。

ダイヤルを上に動かすと近視用補正方向、下に動かすと遠視用補正方向です。

電池を入れて、チェックします

電池は3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）を2本使用します。

①電池ぶたを指で ⊂ 位置まで回し、②切欠け部に指先をかけ、③ふたを開けます。ふたの部分を下に向けるとふたの重みで簡単に開きます。

④電池の向きを正しく合わせて、⑤電池ぶたを閉め、⑥ ⊂ の位置まで回してロックします。

⑦パワースイッチをONにして、電池残量をチェックします。

・電池交換はパワースイッチをOFFにして行ってください。
・操作中に爪を傷つけないようにご注意ください。

電池残量表示の状態	意　味
が点灯。（自動的に消えます）	電池の容量は十分です。撮影できます。
が点滅し、液晶パネルの他の表示は通常通り点灯。	電池の容量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。
が点滅し、液晶パネルの他の表示は消灯。	電池の容量が無くなりました。新しい電池と交換してください。

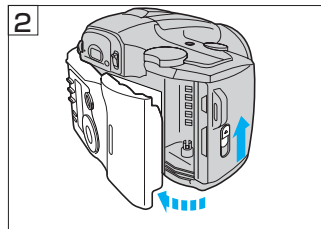
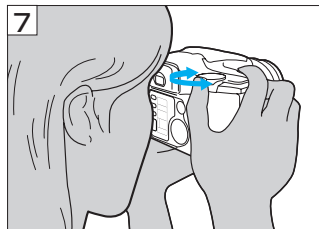
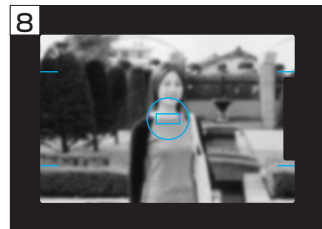
・電池に関するご注意をお読みください。（P.65）
・長期旅行や、寒冷地などの撮影には予備の電池をご用意ください。
・電池交換をした後は日付合わせを行ってください。（P.51）

1 電池を入れます。(P.15)

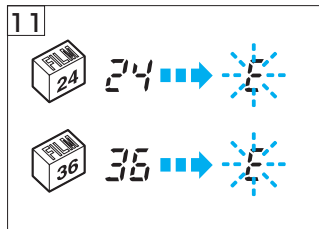
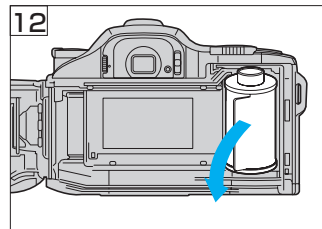
2 裏ぶたを開けます。(P.20)

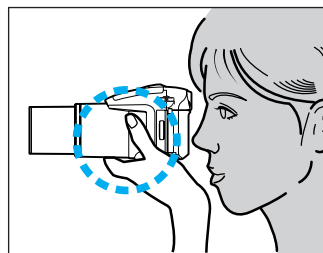
3 フィルムの先端をフィルム室奥のマークの位置に合わせます。(P.20)

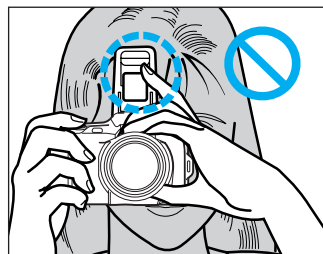
4 裏ぶたを閉じると自動的に1コマ目まで巻き上がります。(P.21)

5 パワースイッチをONにします。(P.21)

6 コマ数表示が「1」になっている事を確認します。(P.21)

7 ズームボタンを押して構図を決めます。(P.22)

8 オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。(P.23)

9 シャッターボタンを軽く押します。合焦音と合焦マークの点灯を確認します。(P.23)

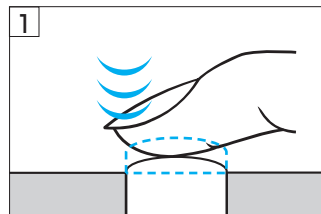
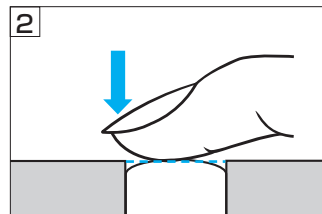
10 シャッターボタンを押し切って撮影します。(P.23)

11 フィルムが終わると自動的に巻き戻ります。(P.25)

12 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。 (P.25)

カメラに慣れましょう【カメラの構え方】

よこ位置

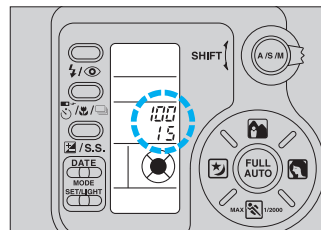
たて位置

<悪い例>

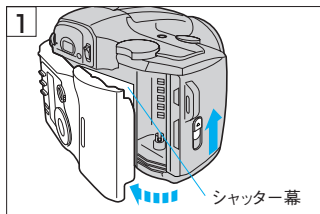
・レンズ、鏡筒部を持たないようにしてください。
・レンズ、フラッシュなどに指やストラップがかからないようにご注意ください。
・焦点距離が長くなるほどカメラぶれが起こりやすくなります。脇をしめるなど正しく構えてカメラぶれを防ぎましょう。

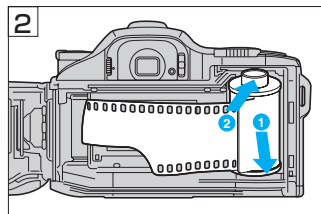
【シャッターボタンの押し方】

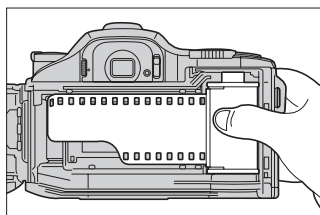
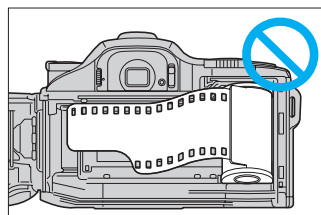
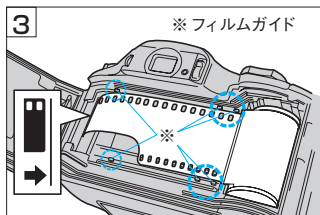
シャッターボタンは2段階に作動します。
フィルムを入れる前に練習しましょう。

軽く押すと（半押し）
レンズが動き、ピントが合います。

さらに押し込むと（押し切り）
シャッターが切れます。

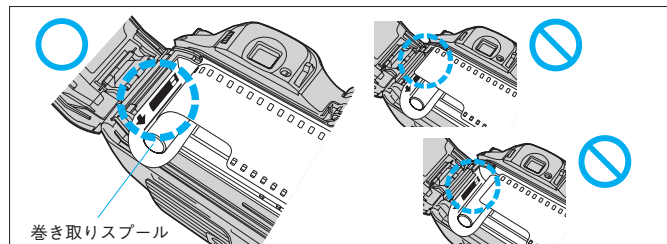
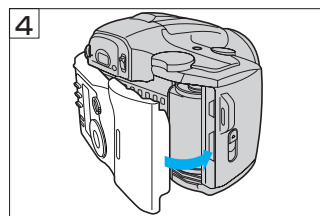
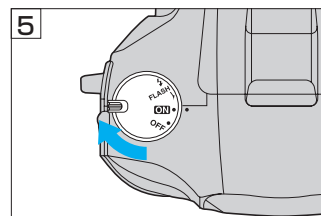
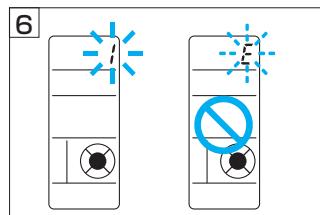
確認：
ファインダー像が鮮明になり、合焦音が鳴り、合焦マーク（P.12）が点灯します。

合焦マークが点滅している時はシャッターは切れません。

液晶パネルとファインダーに絞り値とシャッタースピードが表示されます。

・合焦マークが点滅している時はシャッターが切れません。
・シャッターボタンは静かに押してください。
・シャッターボタンを押す時に、カメラがぶれると写真がボケる原因となります。

フィルムを入れます

裏ぶた開放ノブをスライドさせ、裏ぶたを開けます。

フィルムを入れます。

シャッター幕やパノラママスクは、非常に薄く高精度にできています。指やフィルムなどで触れると破損・変形の恐れがあります。絶対に触れないようにご注意ください。

<良い例>
パトローネの口元が浮かないように押さえてください。

<悪い例>

フィルムの先端をフィルム室奥のマーク位置まで入れます。

・フィルムガイド間にフィルムが正しく位置していることを確認してください。
・フィルム先端をマークの矢印位置に合わせてください。

フィルム先端を指標より奥へ入れすぎたり、入れ方が足りないと、フィルム装てんができない場合があります。
フィルム先端が折れていないことを確認してください。

裏ぶたを閉じます。
自動的に1コマ目まで巻き上がります。

パワースイッチをONにします。

確認：
液晶パネルのコマ数表示が「1」になります。

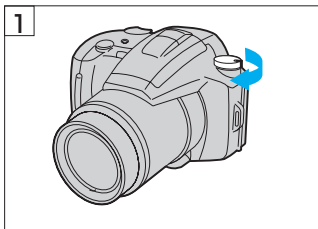
「E」が点滅している時は、フィルムが1コマ目まで巻き上げられなかった状態です。裏ぶたを開けいったん3のフィルムのセット状態が正しいか再確認して、もう一度フィルムを入れ直してください。

撮影しましょう

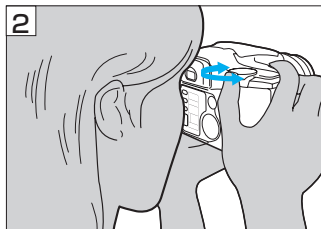
撮影しましょう

写します【プログラムオート(FULL AUTO)】

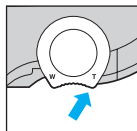
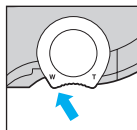
順番に従っていただくと、通常の撮影ができます。
パワースイッチをONにするとカメラまかせ（FULL AUTO）の標準撮影モードになります。

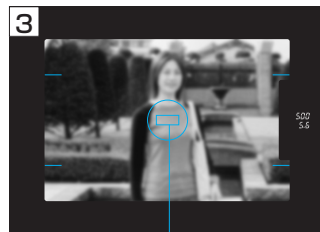
1

レンズキャップをはずします。
パワースイッチをONにします。
確認：
レンズが繰り出され、液晶表示が点灯します。

> **次の操作を行わずに約30秒経過すると液晶表示は消えます。操作を再開すると再び点灯します。**

2

ファインダーをのぞき、ズームボタンを押して構図を決めます。

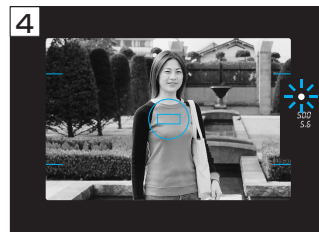
> **⚠警告　太陽や強い光源を見ないでください。失明の恐れがあります。**

ズームボタンの使い方

望遠（140mm）
ボタンの（T）側を押します。

広角（28mm）
ボタンの（W）側を押します。

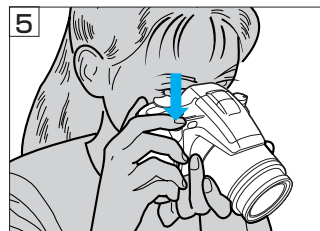
3

オートフォーカスフレーム

オートフォーカスフレームを写したいものにあわせます。

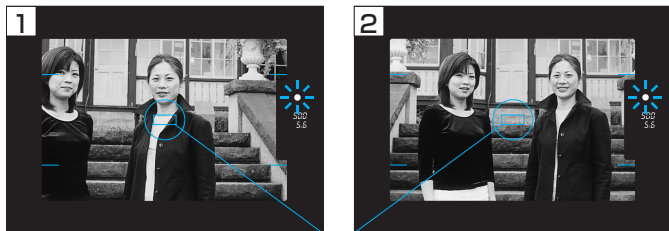
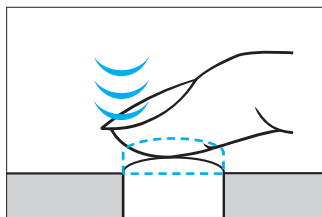
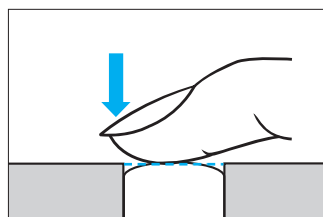
> **撮影範囲は0.6m（広角側）/0.9m（望遠側）～∞（無限大）です。**

4

シャッターボタンを軽く押します。
確認：
ピントが合うと合焦音が鳴り、合焦マークが点灯します。
オートフォーカスの苦手な被写体（P.56）や距離が近すぎる場合は合焦マークが点滅します。

> **合焦マークが点滅している時はシャッターは切れません。**

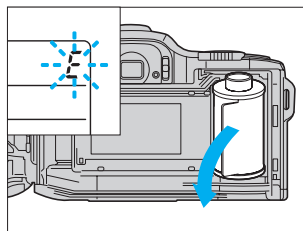
5

そのままシャッターボタンを押し切ります。
シャッターが切れ自動的にフィルムが巻き上がります。
撮影が終わったらパワースイッチをOFFにしてください。

写します【フォーカスロック】

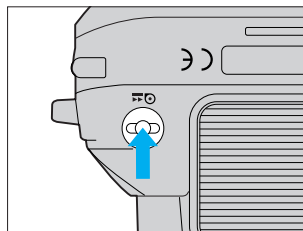
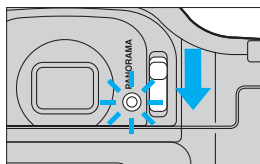
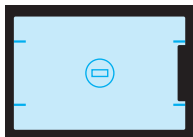
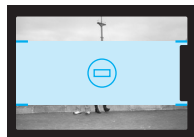
ピントを合わせたいものがオートフォーカスフレームからはずれる場合は、以下の操作（フォーカスロック）をします。

オートフォーカスフレーム

写したいものにオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

シャッターボタンを軽く押したまま、写したい構図に変えて押し切ります。

確認：
合焦音が鳴り、合焦マークが点灯します。このときに露出も固定されます。（AEロック）

フィルムを取り出します

フィルムが終わると自動的に巻き戻しを開始します。
また、フィルムが終わる前でも途中巻き戻しができます。

作動音が止まり「E」の点滅表示を確認します。
裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。
巻き戻し中はフィルムコマ数が減っていきます。

フィルムは規定枚数より多く撮れて、終わることがあります。

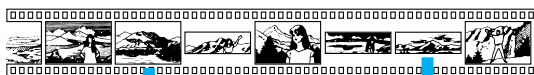
途中巻き戻し

途中で巻き戻す時は、爪の先などで途中巻き戻しボタンを軽く押してください。
シャープペンシルなど、先のとがったもので強く押さないでください。ボタンが途中でひっかかり故障の原因となることがあります。

パノラマ撮影

パノラマ撮影へ切替え

パノラマ切替えレバーを下にするとパノラマ撮影になります。パノラマ確認ランプが点灯します。上にすると標準撮影になります。

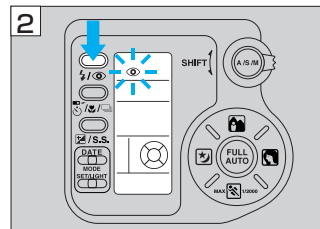
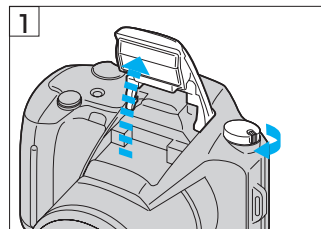
- 青い指標（実際には青くありません）に囲まれた部分が写ります。（白い部分は写りません）
- パノラマ撮影時、レリーズ後にパノラマ確認ランプが5秒間点滅します。
- パノラマ切替えレバーは途中で止めて使用しないでください。
- パノラマ撮影では日付/時間の写し込みはできません。
- パノラマ撮影の時に裏ぶたを開けてパノラママスクにさわらないでください。故障の原因となります。

パノラマ撮影の仕組み

「パノラマプリント」では通常の35mmフィルム1コマ分の上下をカットして横長の画像を写し込みます。
プリント時に約12mm×35mmの範囲が、パノラマサイズ（89mm×254mm）に引き伸ばされます。
撮影枚数は通常と変わりません。

通常サイズプリント　パノラマサイズプリント

パノラマ撮影された場合は店頭にてその旨お伝えください。

フラッシュ撮影【モードの選択】

撮影状況、目的に合わせたフラッシュ撮影が選べます。

フラッシュモードの選び方

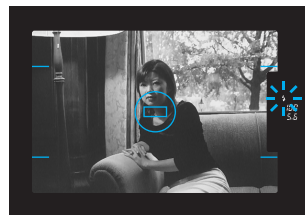
パワースイッチを ϟ の位置にします。フラッシュがポップアップします。
充電が始まり、フラッシュ撮影が可能になります。
フラッシュは暗い時には自動的に発光します。

ϟ/👁ボタンを押してモードを切替えます。
確認：選んだモードが点灯します。

モード表示	フラッシュモード	用　途
(表示なし)	オート発光	暗い時、逆光の時、蛍光灯下では自動的に発光します。(P.29)
👁	赤目軽減発光	目が赤く写ってしまう現象を軽減します。(P.30)
ϟ	強制発光	必ず発光させたい時に使用します。(P.31)

・約0.2秒～4秒で充電を完了します。（常温、新品電池時）
・プログラムオート（FULL AUTO）でのフラッシュ発光時、シャッタースピードは1/100秒にセットされます。
・フラッシュをポップアップしていない時に、ファインダー内の ϟ が点滅している時は、フラッシュを使うことをおすすめします。
カメラぶれしにくくなり、よりきれいな写真が撮れます。
・このカメラは暗い場所でのAF補助光としてフラッシュ発光を利用しています。
シャッターボタンを軽く押した時にフラッシュが細かく数回光り（AF補助光）、さらに押し切った時に本発光となります。
最後までしっかりとカメラを構えてください。

⚠注意 フラッシュ光により短時間視界が妨げられることがあります。
例えば、下記の様なことはしないでください。
例：①フラッシュを人や動物の目の前で発光
②フラッシュを運転者に向けて発光
・オート発光、赤目軽減発光モードでは暗い時、自動的にフラッシュが発光しますのでご注意ください。

設定した露出モードにより必要に応じて（暗い時、逆光の時、蛍光灯下で）、フラッシュが自動的に発光します。

シャッターボタンを軽く押した時、ファインダー内右横 ϟ が点灯していればフラッシュが発光します。

・ ϟ が点滅しているしている時は、フラッシュ充電中のためシャッターが切れません。いったんシャッターボタンから指を離して、数秒待ってから撮影してください。
・マクロモード（P.48）でもご使用になれます。

フラッシュ撮影可能範囲（ネガカラーフィルム使用時）

ISO	広　角（W. F4.9の時）	望　遠（T. F6.9の時）
100	3.7m	4.1m
200	5.3m	5.8m
400	7.4m	8.2m

上記の表はプログラムオートで暗い時の条件です。

リバーサルフィルム使用時の遠距離側撮影可能範囲は各々の70%程度となります。

・フラッシュ発光時はシャッタースピードが1/100秒にセットされます。プログラムオート、絞り優先オートの時、1/100秒より高速ではフラッシュは発光しません。
・撮影条件により上記撮影可能範囲は変化します。

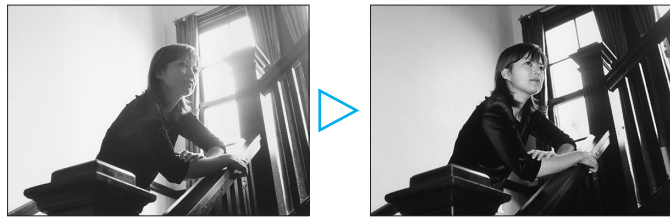
さまざまな機能を使ってみましょう

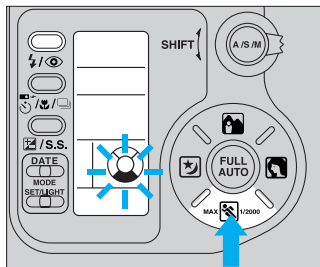
【 赤目軽減発光モード】

目が赤く写る現象を軽減します。
本発光前に20数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。
予備発光をする以外はオート発光と同じです。

- シャッターが切れるまで約1秒かかりますので、カメラをしっかり構えてください。
  この間カメラを動かしたり写される人が動かないように注意してください。写される人に予備発光を説明し、目を閉じないようにしてください。
- 以下の場合、赤目軽減の効果が現れにくくなります。
  1.フラッシュを正面から見ていない
  2.予備発光を見ていない
  3.被写体までの距離が遠い場合
  また、個人差によっても赤目軽減の効果が異なります。
- ストップアクションモード（P.33）では使用しないでください。
  シャッターチャンスを逃す恐れがあります。

【 強制発光モード】

必ず発光させたい時に使います。
強制発光モードは、フラッシュを常に発光させるモードです。
逆光状態で人物も背景もはっきり写すことできます。
キャッチライト効果により、人物がいきいきと写ります。

- フラッシュ撮影可能範囲内（P.29）で撮影してください。
- 非常に明るい場所では効果が現れにくくなります。
- プログラムオートおよび絞り優先オート（P.38）、シャッター優先オート（P.39）、マニュアル露出（P.40）でご使用になれます。

撮影目的に応じた撮影が簡単にできる4つのモードが選べます。

露出モードの選び方

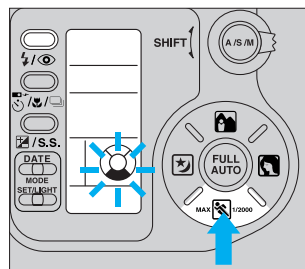
被写体に合わせて、イメージセレクトボタンを押します。

確認：選んだモードが点灯します。

露出モードの種類

MAX 1/2000	ストップアクション	動きのあるものを止めて撮影したい時（P.33）
	ポートレート	背景の『ぼけ』を生かした雰囲気のある人物写真を撮影したい時（P.34）
	風景	背景を生かした写真を撮影したい時（P.35）
	夜景	夜景撮影や夜景をバックに人物を撮影したい時（P.36）

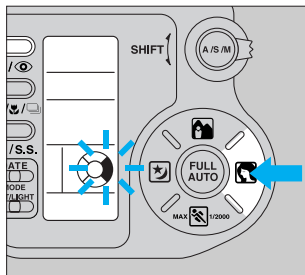
動きのある被写体を止めて撮りたい場合

シャッタースピードが高速側にセットされるため、動く被写体の『ぶれ』を少なくします。(最高速は1/2000秒)
また、このモードでは動体予測AFにより、動きのある被写体にもピントを合わせられます。

イメージセレクトボタンの MAX 1/2000 を押します。
構図を決めて、シャッターボタンを押します。

- **シャッターボタンを半押しで常にピントを合わせ続けます。合焦音は最初2回鳴ります。**
- **動きの速い被写体には、ピントが合わないことがあります。**
- **フラッシュ撮影は、オート発光モードをお使いください。**

1.イメージセレクトボタン
【ポートレート】

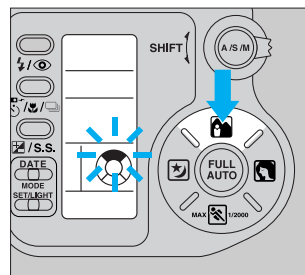
背景の『ぼけ』を生かした人物写真を撮りたい場合

背景の『ぼけ』は特に望遠側での撮影で、背景までの距離が遠い時に効果的です。
このモードではスーパーFP発光（P.59）により、1/2000秒までフラッシュが同調します。

イメージセレクトボタンの を押します。
構図を決めて、シャッターボタンを押します。

・絞りは開放側にセットされます。
・フラッシュを使用すると人物を際立たせることができます。

1.イメージセレクトボタン
【風景】

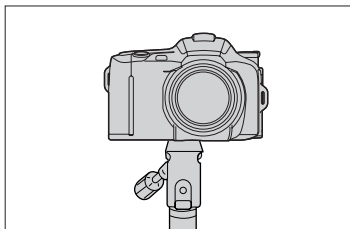
背景を生かした写真を撮りたい場合

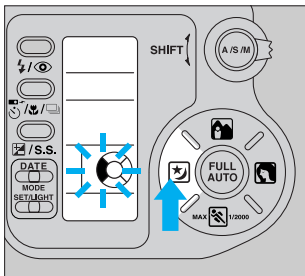
風景撮影や風景をバックに人物撮影を行う場合の撮影に効果的です。
近くから遠くまで鮮明に撮れます。

イメージセレクトボタンの を押します。
構図を決めて、シャッターボタンを押します。

効果の高い、広角側でご使用ください。

さまざまな機能を使ってみましょう

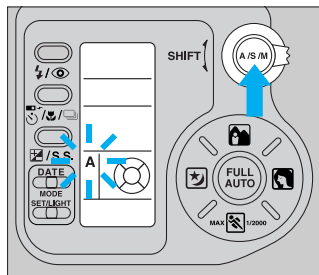
1.イメージセレクトボタン
【夜景】

夜景をきれいに撮りたい場合
カメラを三脚などでしっかりと固定してください。

夜景撮影や夜景をバックに人物撮影を行う場合、背景を黒くつぶさずに人物も夜景も鮮やかに写せます。
人物はフラッシュ光で写し、夜景は最長4秒までのシャッタースピードで写し込みます。

●夜景と人物を撮影する場合はフラッシュを使用ください。
●夜景のみの撮影の場合はフラッシュを使用しないでください。

イメージセレクトボタンの を押します。
構図を決めて、シャッターボタンを押します。

・フラッシュをポップアップしている時は、フラッシュの明るさも被写体に合わせて自動的に補正されます。
・シャッタースピードが最長4秒となりますので、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

露出モード　2. 露出モードボタン

被写体に応じた撮影を絞り優先オート、シャッター優先オート、マニュアル露出で行うことができます。

露出モードの選び方

露出モードボタンを押して【A】絞り優先オート、【S】シャッタースピード優先オート、【M】マニュアル露出を選びます。

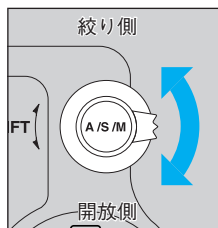
確認：選んだモードが点灯します。

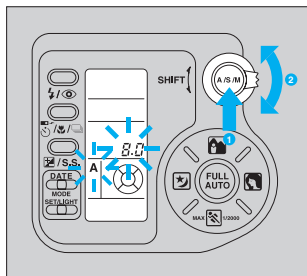
露出モードの種類

P	プログラムオート	カメラまかせのFULL AUTOモードです。(P.50)
A	絞り優先オート	絞りをマニュアルで設定し、シャッタースピードは自動で制御されます。(P.38)
S	シャッター優先	シャッタースピードを設定し、絞りは自動で制御されます。(P.39)
M	マニュアル露出	シャッタースピードと絞りを任意にセットします。(P.40)

2.露出モードボタン
【A 絞り優先オート】

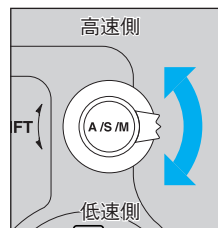
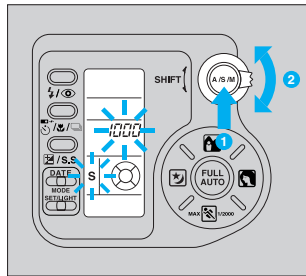
絞りを自分でセットする事により、背景の『ぼけ』をコントロールします。
シャッタースピードは自動的に制御されます。

絞り込んでいく（大きい値）と、背景までピントが合います。

開放側（小さい値）では背景が『ぼけ』ます。

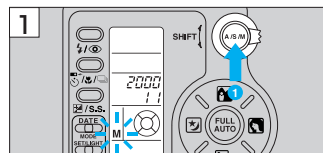
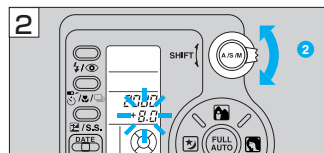
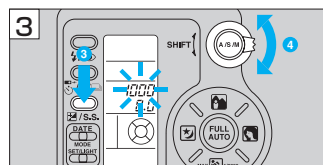
露出モードボタンを押して、①【A】絞り優先オートにします。
シフトレバーを上方向に操作すると、② 0.5段ずつ絞り込まれます。
開放側に戻す時は、下方向に操作します。②

シャッターボタンを半押しした時に、ファインダー内のシャッタースピードが点滅しているときは、露出オーバーまたはアンダーです。
絞り値をシャッタースピードが点滅しない値まで変えてください。

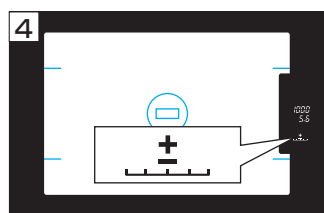
2.露出モードボタン
【S シャッタースピード優先オート】

シャッタースピードをご自分でセットする事により、被写体の動きをとらえた撮影ができます。
絞りは自動的に制御されます。

シャッタースピードを高速にすると動きを止めた撮影ができます。
低速にすると被写体の『動き』を活かした撮影ができます。

露出モードボタンを押して、【S】シャッタースピード優先オートにします。①
シフトレバー上方向に操作すると、高速側になります。②
下方向に操作すると低速側になります。②

シャッターボタンを半押しした時に、ファインダー内の絞り値が点滅している時は、露出オーバーまたはアンダーです。
シャッタースピードを絞り値が点滅しない値まで変えてください。

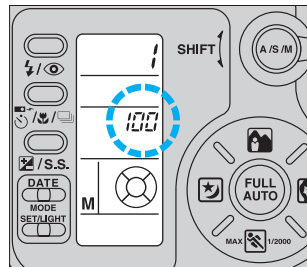
2.露出モードボタン
【M マニュアル露出】

絞りとシャッタースピードをご自分でセットする事により、目的に合わせた撮影ができます。

露出モードボタンを押して、【M】マニュアル露出モードにします。①

シフトレバーを上下方向に操作して、絞り値をセットします。②

マニュアル露出ボタンを押しながら③、シフトレバーを操作して④、シャッタースピードをセットします。液晶パネルとファインダー内に露出レベルが表示されます。

マニュアル露出時は露出補正はできません。

シャッターボタンを半押しします。ファインダー内の露出レベルを確認します。±表示が点灯しない時は絞り値かシャッタースピードを変更します。

適正露出からのズレ量	ファインダー内表示	
	表　示	状　態
＋2.5EV以上	+▮▮	点滅
＋1.5EV～2.4EV	+▮▮	点灯
＋0.5EV～1.4EV	+▮	点灯
適正露出	±	点灯
－0.5EV～1.4EV	▮−	点灯
－1.5EV～2.4EV	▮▮−	点灯
－2.5EV以上	▮▮−	点滅

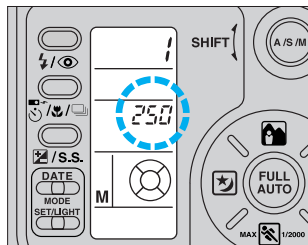
2.露出モードボタン
【M マニュアル露出でのフラッシュ撮影】

シャッタースピードが1/100秒以下のフラッシュ撮影（フラッシュは自動調光します。）

フラッシュをポップアップします。シャッタースピードを1/100秒以下にセットします。被写体までの距離に応じて表を参考（記載のF.No.か開放側の値）に絞り値をセットします。

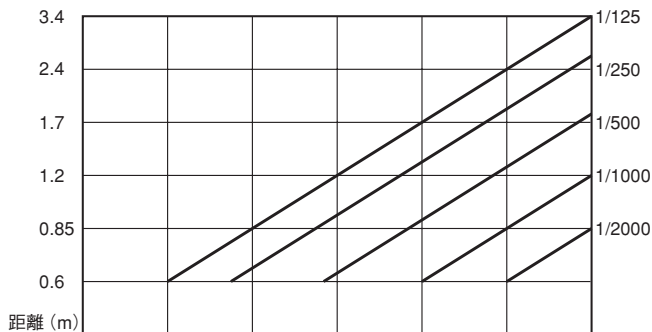
【参考】 絞り値の目安（ネガカラーフィルムでの撮影の場合）

		マクロ			通　常			
被写体までの距離		0.6～0.8	0.8～1.0	1.0～1.2	1.2～1.5	1.5～2.0	2.0～2.5	2.5～3.8
ISO100	W	F16	F11	F9.5	F8	F6.7	F5.6	F4.9
	T				F13	F9.5	F8	F6.9
ISO200	W	F22	F16	F13	F11	F9.5	F8	F6.7
	T				F19	F13	F11	F9.5
ISO400	W	F22	F22	F19	F16	F13	F11	F9.5
	T				F22	F19	F16	F13

ISO100の計算式
T側：絞り値≒GN20÷距離（m）
W側：絞り値≒GN13÷距離（m）
〔GN：ガイドナンバー〕

シャッタースピードが1/100秒を越える場合のフラッシュ撮影（P.59 スーパーFP発光参照。）

フラッシュをポップアップします。
撮影距離により、絞り値とシャッタースピードをセットします。
（表参照）

シャッタースピードによりガイドナンバー（GN）が自動的に変化します。

撮影距離による絞り値とシャッタースピードの目安
（自然光のない状態でネガカラーフィルムでの撮影の場合）

絞り値（F.No）						
ISO100	11	8	5.6	4.9		
200	16	11	8	5.6	4.9	
400	22	16	11	8	5.6	4.9

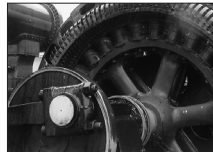
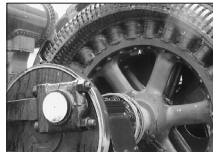
自然光が入ると、撮影距離は上記データより長くなります。（具体的な撮影距離は撮影条件により異なります。）

露出補正

カメラまかせの自動露出ではなく、意図的に明るく、または暗く表現したい時に使用します。
露出補正値は、0.5段階で±2EVまで補正できます。

▼白っぽいものをより白く（補正＋2EV）

▼逆光の人物（補正＋1EV）

▼黒っぽいものをより黒く（補正ー2EV）

▼日中の風景を擬似的夕景に（補正ー2EV）

●＋補正（写真全体を明るく表現します。）
・白っぽいもの　・逆光の人物　・雪景色
●－補正（写真全体を暗く表現します。）
・黒っぽいもの　・黒い背景の人物　・スポットライトがあたっている人物
●ネガフィルムをお使いの場合、プリント時に自動補正されて、効果がわかりにくくなることがあります。

さまざまな機能を使ってみましょう

露出補正は【M】マニュアル露出モード時以外で操作できます。

露出補正ボタンを押しながら①、シフトレバーを操作し②、補正値をセットします。
液晶パネルの露出補正値は、露出補正ボタンを押している時のみ点灯します。

シャッターボタンを半押しするとファインダー内に ＋▮ が点灯します。

露出補正を解除したい時は、露出補正値を±状態にしてください。

- **露出補正時はフラッシュ光量も補正されます。**
- **ネガフィルムをお使いの場合、プリント時に自動補正されてしまい、効果がわかりにくくなる事があります。**
- **【A】絞り優先オートモード時で、露出連動範囲外の場合はシャッタースピード値が点滅します。**
  【S】シャッタースピード優先オートモード時で、露出連動範囲外の場合は絞り値が点滅します。
  この場合でも、シャッターが切れますが補正通りには撮影できない可能性があります。

露出補正値	表　示
＋1.5・＋2.0EV	＋▮▮
＋0.5・＋1.0EV	＋▮
±0.0	±
－0.5・－1.0EV	▮－
－1.5・－2.0EV	▮▮－

スポット測光

人物の顔などの狭い部分を正確に測光して、適正な明るさで撮影できます。

スポットフレーム

左図の場合、通常の撮影では逆光のために人物が暗く写ってしまいます。測光する部分にスポットフレームを合わせます。

SPOTボタンを押します。
確認：
液晶パネルとファインダーに ⊡ と絞り、シャッタースピードが点灯し、測光した露出が固定されます。

シャッターを切ります。

撮りたいものと背景の明るさが極端に違う場合には、スポット測光による撮影をおすすめします。（逆光など）

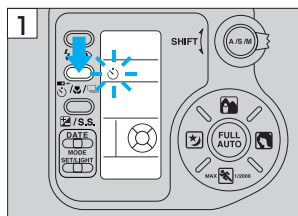
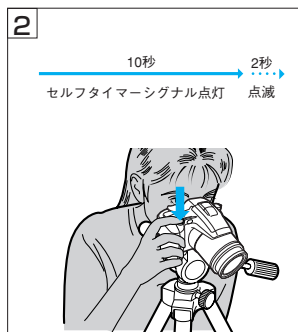
- **フラッシュを上げた時および、夜景モード時はスポット測光はできません。**
- **スポット測光はシャッターを切ると解除されます。**
- **スポット測光を途中解除する場合は、再度SPOTボタンを押してください。**

さまざまな機能を使ってみましょう

セルフタイマー撮影

全員での記念撮影ができます。
カメラを三脚などでしっかりと固定してください。
1つのボタンを押すたびにモードが変化します。

1 ボタンを押して、を表示させます。

確認：

液晶パネルにが点灯します。

2 ファインダーをのぞき構図を決めて、シャッターボタンを押します。
約12秒後にシャッターが切れます。

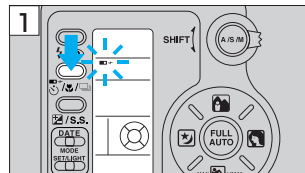
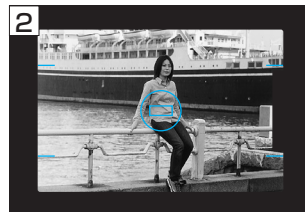
ピントと露出は、シャッターボタンを半押しした時に固定されます。
カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。正しいピントと露出で撮影できません。

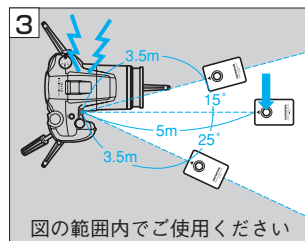
・撮影後は、セルフタイマーが解除されます。
・セルフタイマー作動中、中止したい時はボタンを再度押してください。
・ファインダーからの逆入射光を防ぐため、ファインダーをのぞきながら、シャッターボタンを押し切ってください。

リモコン撮影

離れた位置から自分自身の撮影ができます。

1 ボタンを押して、を表示させます。

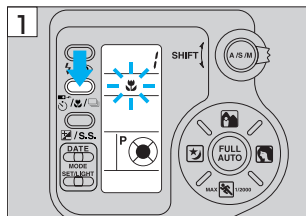
確認：

液晶パネルにが点灯します。

2 ファインダーをのぞき構図を決めます。オートフォーカスフレームを写したい被写体に合わせます。

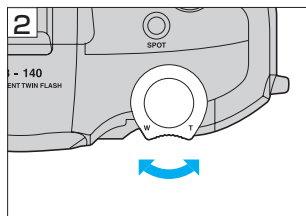
図の範囲内でご使用ください

3 リモコンをカメラに向けて、リモコンの送信ボタンを押します。
カメラが『ピッピッ』と受信音を発して、約3秒後にシャッターが切れます。

撮影終了後はボタンを押して、解除してください。

・リモコンには電池を使用しています。幼児の手の届かない所に置いてください。また、万一飲み込んでしまった場合は直ちに医師にご相談ください。
・リモコンを分解したり、加熱、火中に投入することは危険ですので、絶対にしないでください。
・逆光やオートフォーカスが苦手な被写体（P.56）ではリモコン撮影ができないことがあります。
・リモコンの電池がなくなるとカメラは作動しません。電池の入れ方等詳細は別紙リモコンの使用説明書を御参照ください。

✿ マクロ撮影

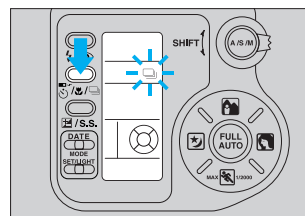
焦点距離全域で、0.6m〜∞までの近接（マクロ）撮影ができます。

◷／▭⊸／✿／❐ボタンを押して、✿を表示させます。

確認：
ファインダー内と液晶パネルに✿が点灯します。

ズームボタンを押して、構図を決め撮影します。

・0.6mより近い場合でもオートフォーカスの苦手な被写体(P.56)では、合焦マークが点灯してもピントが合わないことがあります。
・マクロ撮影を解除する時は、◷／▭⊸／✿／❐ボタンを再度押して✿を消灯してください。

より近接撮影にはマクロコンバーター IS/L LENS E-MACRO H.Q. CONVERTER f=20cmを併用してください。
焦点距離 f=50mm〜140mmの範囲でご使用ください。
f=28mm〜50mmで撮影すると、画面が暗くなることがあります。

❐ 連続撮影

動いている被写体でも、常にピントと露出を合わせ続けて連続撮影ができます。

◷／▭⊸／✿／❐ボタンを押して、❐を表示させます。

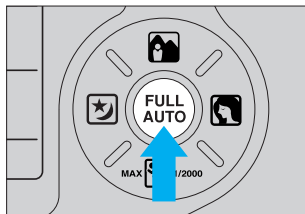
確認：
液晶パネルに❐が点灯します。

シャッターボタンを押し切っているあいだ、連続撮影します。

・シャッターは1秒間に最高約1.2コマ切れます。
・フラッシュ使用時、2コマ目以降はフラッシュが発光しない場合があります。
・合焦音は最初のみ2回鳴ります。

撮影終了後は◷／▭⊸／✿／❐ボタンを押して、解除してください。

プログラムオート（FULL AUTO）への復帰

さまざまな機能操作を行った後に、カメラまかせのプログラムオート（**FULL AUTO**）へ戻します。

FULL AUTOボタンを押します。

パワースイッチをOFF/ONにしても同様に復帰します。

確認：液晶パネルに【P】が点灯します。

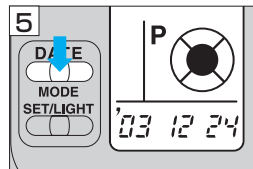
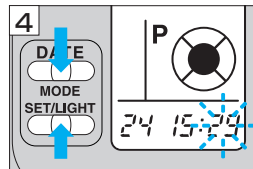
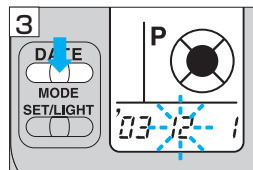
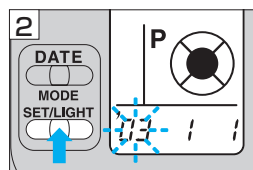
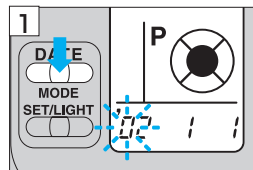
プログラムオート（FULL AUTO）

FULL AUTO（ボタン）を押すと、以下の状態になります。

- **露　　　出･･･通常プログラム**
- **フラッシュ･･･オート発光モードもしくは赤目軽減発光モード**
- **以下の機能が解除されます。**
  - ・スポット測光
  - ・マクロ撮影
  - ・露出補正
  - ・連続撮影
  - ・リモコン撮影
  - ・セルフタイマー撮影

露出モードボタンでプログラムオートに切替えた時は、フラッシュがオート発光・赤目軽減発光に切替わります。その他露出モード（A.S.M）以外の機能は切替え前の状態を保ちます。**（P.37）**

日付の合わせ方

電池を入れた時には、必ず日付、時間を合わせてください。

最初に「年」表示を合わせます。

① **パワースイッチをON にしてMODEボタンを押し続け、「年」表示を点滅させます。**

② **SETボタンを押して「年」表示を合わせます。
1回押すと1進み、押し続けると早送りができます。進みすぎた場合は押し続けると戻ります。**

次に「月」表示を合わせます。

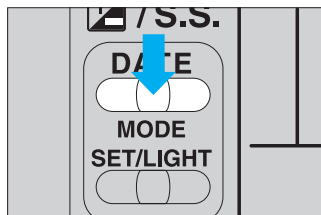
③ **もう一度MODEボタンを押して「月」表示を点滅させます。
SETボタンを押して、「月」表示を合わせます。**

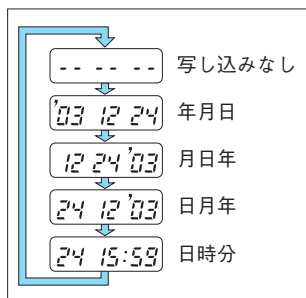
MODEボタンを押すごとに点滅表示は「年」→「月」→「日」→「時」→「分」と変わります。

④ **②、③を繰り返して「時」「分」まで合わせます。**

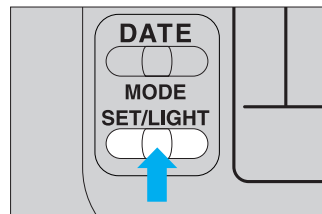
⑤ **「分」まで合わせた後に、MODEボタンを押します。
点滅箇所が無くなり完了です。**

日付写し込み選択ボタンの使い方

写真に写し込みたい表示を選びます。

パワースイッチをONにして、MODEボタンを押します。
MODEボタンを押すたびに、表示が図の順番に変わります。

確認：
写し込みたい日付表示を点灯させておきます。

・日付の電源はカメラ本体の電池と共用です。
　カメラ本体の電池交換時には、必ず日付、時間を確認、修正してください。
・日付は、画面右下に写し込まれます。日付の写る位置に白色またはオレンジ色、黄色などの明るい色がある場合は日付が読みにくくなることがあります。
・規定枚数を超えて撮影されたコマには日付が写し込まれない場合があります。
・白黒フィルムには日付が写らないことがあります。
・パノラマ撮影では、日付を写し込むことはできません。

液晶パネル照明の使い方

暗い場所での操作時、液晶パネルを見やすくします。

LIGHT（液晶パネル照明）ボタンを押します。

●照明は、LIGHT（液晶パネル照明）ボタンを押してから約8秒後に自動消灯します。
　但し、点灯中にいずれかの操作を行うと、点灯時間が延長されます。
　・FULL AUTOボタン
　・イメージセレクトボタン
　・フラッシュモードボタン
　・セルフ/リモコン/マクロ連続撮影切り替えボタン
　・露出補正/マニュアル露出/シャッタースピード切り替えボタン
　・スポットボタン
　・露出モードボタン
　・シフトレバー
　・日付操作ボタン
●点灯中にカメラを作動させると消灯することがあります。

ズームの効果と使い方

ズームレンズとは、レンズの一部を動かすことによって焦点距離を変えられるレンズのことです。
このカメラの場合は、28mmから140mmのあいだで自由に焦点距離を変えることができます。

28mm 75°

50mm 46°

●28mm
広角。画角が広く被写界深度が深いため、遠近感やコントラストがはっきりしたシャープな写真が得られます。
雄大な風景や、パーティーなどに最適です。

●50mm近辺
標準的な画角です。『ぼけ』なども適度でスナップなど多くの被写体に適します。

120mm 20°

140mm 17°

●望遠な感じが出てきます。被写界深度も浅くなり、絞りの効果も楽しめます。
ポートレートなどに適します。望遠撮影ではカメラぶれを起こさないように、三脚を使用するか、カメラをしっかりホールドしてください。

●画角
フィルムに写る被写体の範囲を角度であらわしたもの。
画角が大きければ、写る範囲は広くなり、小さければ写る範囲は狭くなります。

●被写界深度
被写体の前後の『ぼけ』がなく実用的にピントが合う範囲を言います。レンズの焦点距離が短いほど、また、絞りを絞るほど深くなります。

28mm F.No.8

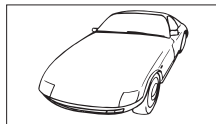
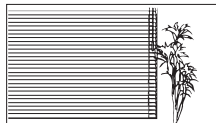
50mm F.No.8

120mm F.No.8

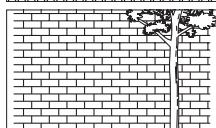
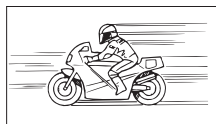
140mm F.No.8

より良い写真を撮るために

オートフォーカス（AF）の苦手な被写体

L-5はほとんどの被写体に対してオートフォーカスが可能ですが、以下の①〜③のような条件ではピントが合わない時があります。
また、④〜⑥のような被写体では、ファインダー内の合焦マークが点灯しシャッターが切れても、ピントが合っていない時があります。その場合は以下の方法で撮影してください。

①コントラストのない被写体
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。

②縦線のない被写体
カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横にもどして撮影してください。

③画面中央に極端に明るいものがある被写体
被写体と同距離にあるコントラストのはっきりしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。

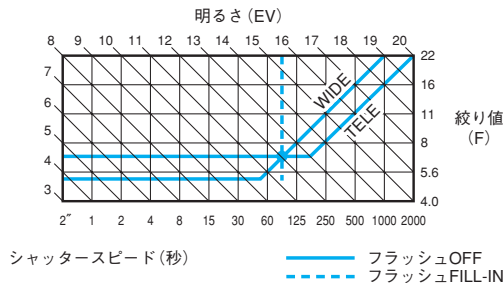
④遠いものと近いものが共存する被写体
オートフォーカスして合焦マークが点灯しても、撮影したい被写体がぼけている時は、同じ距離にあるものでピントを固定してから構図を決めてください。

⑤繰り返し模様の被写体
オートフォーカスして合焦マークが点灯しても撮影したい被写体がぼけている時は、同じ距離にあるものでピントを固定してから構図を決めてください。

⑥動きの速い被写体
あらかじめ撮影したい被写体と同じ距離ににあるものでピントを固定してから、構図を決めて撮影してください。

露　出

●自動露出モード
露出とはフィルムに入る光の量のことで、絞り値とシャッタースピードとの組み合わせでコントロールします。この光の量はフィルムの感度（フィルムの箱にISO100、ISO200などの数字で表示されています）によって適正な量が決まっており、適正露出と呼ばれています。適正露出をカメラが自動的に行ってくれるのが自動露出機能です。L-5は、「プログラムオート（**FULL AUTO**）」「絞り優先オート」「シャッタースピード優先オート」の3種類の自動露出モードを採用しています。
「プログラムオート（**FULL AUTO**）」は、ある明るさの被写体に対して、カメラが絞り値とシャッタースピードを最適な組み合わせに自動的にセットし、一瞬で適正露出が得られます。誰でも気軽にシャッターチャンスに集中できる一般撮影に最も適した露出モードです。
「絞り優先オート」は絞り値を自分で選び、それに応じてカメラがシャッタースピードを自動的にセットする露出モードです。絞り値を選ぶことにより、背景のボケを自由にコントロールし、高度な表現意図を反映できる露出モードです。
「シャッタースピード優先オート」は、シャッタースピードを自分で選び、それに応じてカメラが絞り値を自動的にセットする露出モードです。シャッタースピードを変えることにより被写体の一瞬の動きをとらえたり、逆に被写体をズラして、動きを表現することができます。

●プログラム線図（**FULL AUTO**）
図1は焦点距離が広角28mmと望遠140mmの時のプログラム線図です。ズーミングに応じてプログラム自体が変化します。
明るい場合は、絞り値とシャッタースピードが同時に変化し、暗くなってくると絞りが開放となりシャッタースピードのみが2秒まで対応します。（ISO100時）
なお、プログラムオート（**FULL AUTO**）（P.22）でフラッシュを上げると、暗い場合や逆光の時は自動発光します。その時シャッタースピードは1/100秒に固定されます。

図1　プログラムオートモード

シャッタースピード（秒）
フラッシュOFF
フラッシュFILL-IN

●ポートレートモード

絞り値が開放になることによって、背景の『ぼけ』を活かした美しいポートレートが得られます。

さらに、フラッシュ撮影時には自動的にスーパーFP発光に切替わり、1/2000秒まで全速同調します。キャッチライト効果で、より高度なポートレート撮影ができます。

また、シャッタースピードが高速になるので、カメラぶれが防止できます。

●夜景モード

美しい夜景をその雰囲気のままに写すためのモードです。

L-5では露出時間を最長4秒まで（ISO100時）のばし、夜景に適した露出を与えています。

夜景をバックにした人物などの撮影ではフラッシュの使用が効果的です。この場合、人物・背景それぞれに最適な露出に補正を行っています。スローシャッターになるので、カメラぶれ防止のため三脚を使用してください。

●ストップアクションモード

運動会などのスポーツシーンや、動きのある子供のスナップなどシャッターチャンスが特に大切なシーンの撮影に適したモードです。シャッタースピードが高速になり一瞬の動きを捉えます。

●風景モード

記念撮影などの人物も背景もはっきり写したい時や空と雲のようなコントラストのはっきりしない自然風景などを写す場合に適したモードです。

絞りを絞り込むことにより、ピントの合う範囲を出来るだけ広くします。

また、このモードでの撮影シーンでは被写体が∞（無限遠）になることが多いため、AFは∞位置よりスタートできるようになっています。

フィルム感度・スーパーFP発光

●フィルム感度

フィルムに表示されているISO100、ISO200などの数字がフィルム感度です。感度が高いフィルムを使用すると、フラッシュ撮影距離が伸びます。

ISO400のフィルムではISO100のフィルムを使用する場合に比べ2倍の距離まで撮影できます。暗いところでの撮影にはISO400などの高感度フィルムの使用をおすすめします。

また、高感度フィルムを使用すると、シャッタースピードが高速になるのでカメラぶれが防止できます。但し、一般的には感度が低いフィルムほど微粒子になります。

フィルム感度はカメラが自動的に読み取ります。DXコード付フィルムISO25～3200をお使いください。DXコードのないフィルムはISO32にセットされます。

●スーパーFP発光

従来のフラッシュの発光時間は非常に短いため、一眼レフのフォーカルプレーンシャッターでは、シャッターが全開しているシャッタースピードしか同調できませんでした。

L-5では、発光方式を変え、発光時間をのばし、全開しない高速シャッタースピードでもフルシンクロするスーパーFPを実現しました。

絞りを開放にして背景をぼかし、人物を際立たせたり（ポートレート）、キャッチライトとしてお使いください。

スーパーFP発光可能な露出モード

モード名	フラッシュモード
ポートレート	オート発光、赤目軽減発光
【A】絞り優先オート	強制発光にセットします
【S】シャッタースピード優先オート	強制発光にセットします
【M】マニュアル露出	強制発光に自動切替

撮影距離による絞り値とシャッタースピードの目安はP42を御参照ください。

測 光

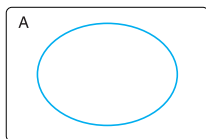
●測光分布

画面のどの部分の明るさを測定しているのかを示すのが測光分布です。L-5は、ESP測光・中央重点平均測光・スポット測光と3種類の測光分布を採用しています。撮影目的に応じて使い分けることで、意図に合った露出ができます。また、レンズを通った光を測る一眼レフならではのTTL測光方式なので、ズーミングや被写体距離などの影響を受けずに正確な測光ができます。

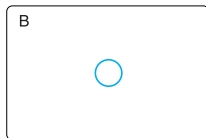
●ESP（Electro Selective Pattern）測光

画面中央部と周辺とを別々に測光し、2つの測光値の演算処理により、最適な露出を決定します。この演算処理プログラムは数多くの試行データに基づいていますので、逆光などの状況もカメラが自動的に判断して適正露出が得られます。露出モードが、プログラムオート（**FULL AUTO**）の時にはESP測光になります。誰でも失敗なく撮影ができる大変すぐれた測光方式です。

●中央重点平均測光

もっとも一般的な測光分布が中央重点平均測光（図A）です。画面中央部を中心に広い範囲を測光します。露出モードが絞り優先オート、シャッター優先オート、マニュアル撮影の時には、この測光方式になります。通常の撮影には大変すぐれている方式です。

●スポット測光

画面の中央部分の光だけを測るのがスポット測光（図B）です。ある1点の露出を正確に割り出すので、強い逆光やコントラストが非常に強い場合に便利です。たとえば逆光での人物撮影では、顔をスポット測光します。

アクセサリー（別売）

●テレコンバーター
IS/L LENS E-1.3X H.Q. TELECONVERTER

IS/L LENS E-1.3X H.Q. TELECONVERTER
により、さらに望遠の効果を強調した180mmの焦点距離を得られます。
肉眼の世界とは異なる望遠の世界が実現できます。
カメラの焦点距離 f=140mmでご使用ください。
その位置以外で撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。

より良い写真を撮るために

Q&A

Q：電池は、どのくらいもちますか。
A：長寿命のリチウム電池を使用していますから約24本（24枚撮り、フラッシュ使用率50%、その他当社試験条件による）の撮影ができます。フラッシュ及びズーム使用頻度が少ない場合は、さらに長もちします。

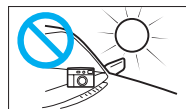
Q：カメラの保管はどうすればよいのですか。
A：カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よく拭いて乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を固く絞って拭き取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。

Q：露出はいつ測定されるのですか。
**A：シャッターボタンを半押ししたときにピントと同時に測定され、半押ししている間固定されます。
スポット測光の場合は、SPOTボタンを押した時に固定されます。**

Q：レンズが汚れてしまったのですが。
A：レンズが汚れた時は、レンズクリーナーとクリーニングペーパーで軽く拭いてください。

Q：フィルターは使えますか。
A：フィルター径52mmのものをご利用ください。PLフィルターなど厚いフィルターは周辺が暗くなったりする場合があります。フィルターの取り付け、取りはずしはパワースイッチをOFFにして行ってください。

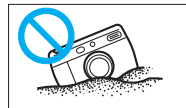
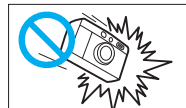
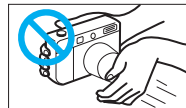
Q：赤外フィルムは使用できますか。
A：使用できません。

取り扱い上のご注意

直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温多湿の場所にカメラを放置しないでください。

戸棚や引き出しに使われているホルマリンや防虫剤のナフタリンから離して保管してください。

水気がついたらすぐに乾いた布で水分を拭き取りましょう。特に塩分は禁物です。

カメラを清掃する時アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。

テレビ・冷蔵庫・スピーカーなどの電気製品の上や近くに置かないでください。

泥や砂をかぶらないようにご注意ください。修理不可能なほどの故障になることがあります。

強い振動やショックを与えないでください。

ズームレンズに無理な力を加えないでください。

取り扱い上のご注意

- 風通しのよいところに置いてください。湿気の多い時期にはビニール袋などに乾燥剤と一緒に入れておくと安全です。
- 使用可能温度は−10℃〜＋40℃ですが、低温では電池性能の劣化によりカメラが作動しないことがあります。
- 寒い戸外から室内に入る時や、急激に温度が変わる時は、カメラをビニール袋等に入れて室内の温度になじませてからとり出してご使用ください。
- カメラ前面の測距部・レンズ・受光部・フラッシュ光部などを髪や手、ストラップ等でふさがないでください。
- 長時間使用しないと、カビがはえたり、故障の原因になることがあります。
  時々シャッターを切るようにし、また使用前には作動点検されることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける時に、カメラを回さないでください。
- 飛行機をご利用されるときは、フィルムの感度にかかわらず未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内にお持込みください。預け入れ荷物に入れた場合、X線検査で感光してしまうことがあります。
  また、手荷物検査の際にもフィルムが入っている場合は、検査官に伝えてX線の照射を避けてください。
- このカメラはマイクロ・コンピューターによって制御されています。マイクロ・コンピューターの特性としてきわめてまれにカメラが作動しなくなります。万一このような状態になった時は、電池をいったん取り出し、入れ直してカメラを作動させてください。
  また極端な高電界下では電子回路が動かなくなることがあります。このような時は影響がなくなるまで離れてお使いください。
- 業務用または過酷な条件での使用はおすすめできません。
- カメラの電気接点部には触れないでください。
- フラッシュを短時間に何度も、連続発光させると、発光部の温度が上がることがありますので、直接手を触れないでください。

電池に関するご注意

⚠警告　電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ、発熱、破損の原因となります。交換する時は、指定された電池を ⊕ ⊖ の向きに注意して正しく入れてください。

- 電池は一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお低温のため性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の ⊕ ⊖ 極が汗や油で汚れていると接触不良をおこす原因なります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- カメラを長期間使わない時は、液もれの危険がありますので、電池をカメラから抜きだして20℃以下の湿度の低いところに保管してください。
- 電池に記載されている注意事項を守ってください。

修理に出す前にお確かめください

●操作上のトラブル

こんな時は…	原　因	こうしましょう	参照頁
カメラが作動しない。	①OFF状態になっている。 ②電池の向きが正しくない。 ③電池がない（液晶パネルに電池残量警告が点滅している）。 ④寒さで電池の性能が一時的に低下した。 ⑤撮り終わって巻き戻されたフィルムが入っている。 ⑥フィルムが正しく入っていない。 ⑦長時間何も操作しなかった。	①パワースイッチをONにしてください。 ②電池を正しく入れ直してください。 ③新しい電池を入れてください。 ④カメラを保温しながら使用してください。 ⑤フィルムを取り出してください。 ⑥フィルムをもう一度入れ直してください。 ⑦約4時間たつと自動的にOFF状態になります。パワースイッチをONしなおしてください。	22 15 15 65 25 20 22
液晶表示が突然消えてしまった。	①液晶表示は何も操作をしないと約30秒で消灯します。	①FULL AUTOボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると点灯します。	22 50
ϟ が点滅してシャッターが切れない。	①フラッシュの充電が完了していない。	①一度シャッターボタンから指を離し、充電が完了するまで数秒待ってから撮影してください。	29
フラッシュを上げていないときに ϟ が点滅する。	①暗くてカメラぶれを生じやすいときに点滅します。	①フラッシュをお使いください。または三脚を使用してください。	27
合焦マークが点滅し、シャッターが切れない。	①被写体の動きが速い時や、カメラぶれの大きい時、またオートフォーカスの苦手な被写体（P.56）の時は合焦できないことがあります。 ②最短撮影距離（広角側：0.6m、望遠側：0.9m）より近くに被写体がある。	①写したいものと同距離にある合焦可能な被写体でピントを合わせフォーカスロックして撮影してください。 ②0.6～0.9m以上離れてください。またはマクロ撮影を行ってください。	24 56 23 48
AF補助光が点灯しているのに合焦しない。	①AF補助光の照射距離（約0.6m～6m）の範囲外の場合や被写体の反射率が低い場合（たとえば青や黒）や被写体にコントラストがない場合は測距できないことがあります。	①被写体に近づいて撮影してください。	
シャッターボタンを押してもシャッターが切れない。	①合焦していない。 ②撮影終了後、巻き戻されたフィルムが入っているとシャッターは切れません。	①ファインダー内の合焦マークで確認してください。 ②フィルムを取り出してください。	23 25
フラッシュが発光しない。	①シャッタースピードが1/100秒より高速になっている。（マニュアル露出、シャッター優先、ポートレートを除く） ②高感度フィルムを使用している。	①フラッシュのモードを強制発光にセットしてください。 ②フラッシュのモードを強制発光にセットしてください。	31 31
ファインダー内の＋/－が点滅する。	①マニュアル露出（M）の時、明るすぎもしくは暗すぎる状態で正しく露出されない時に点滅します。	①絞り値またはシャッタースピードを＋/－が点滅しないところまで変えます。暗いところではフラッシュを使います。	27 38 39
リモコンを押してもシャッターが切れない。	①リモコン撮影にしてから何もしないで約20分たつと、液晶表示が消え、リモコンではシャッターが切れなくなります。 ②リモコンの電池が消耗している。	①FULL AUTOボタンを操作すると液晶表示が点灯しますので、もう一度リモコン撮影にセットし直してください。 ②リモコンの電池を交換してください。	

●写真の出来がよくない場合

こんな時は…	原　因	こうしましょう	参照頁
フラッシュを使用し、人物撮影をしたら目が赤く写った。	①どのカメラでもフラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象ですが個人差が大きく、また周囲の明暗等の撮影条件によっても異なります。一般的には日本人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。 また、140mmでの望遠撮影では広角撮影の場合より、発生しやすくなります。	①赤目軽減発光を使用することにより、発生頻度を大幅に軽減します。	30

その他

こんな時は…	原　因	こうしましょう	参照頁
撮影するときにはファインダーに入っていたが、仕上がった写真では周辺が一部カットされていた。	①写っている画面の周辺がプリント時にカットされてしまうことがあります。	①構図を決めるとき少し余裕を残しておくと安全です。	
ピントの合っていない写真ができた。	①シャッターボタンを押す時にカメラが動いてしまった。（カメラぶれ） ②ピントを合わせたいものが、オートフォーカスフレームからはずれてしまった。 ③セルフタイマー撮影でカメラの直前に立ってシャッタ一ボタンを押した。	①カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。 ②ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行なってください。 ③カメラの前に立たず、ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	18 19 24 46
できあがった写真が暗い。	①撮りたいものがフラッシュ撮影可能範囲よりも遠くにあった。 ②逆光状態で撮影した。 ③露出補正されている。	①フラッシュ撮影可能範囲内で撮影してください。 ②フラッシュのモードを強制発光にセットして撮影してください。または、スポット測光を行ってください。 ③露出補正を±0に戻してください。	29 27 31 45 43
日付が写し込まれていない（写り込みがうすい。）	①写し込みなし「- - -」モードになっていた。 ②日付の写る位置に白・オレンジ・黄色などの明るい色があった。 ③パノラマモードで撮影した。	①写し込みたいモードをセットしてください。 ②デートの写る位置になるべく明るいものがこないように撮影してください。 ③パノラマモードでは、日付は写し込まれません。日付を入れたいときは標準モードで撮影してください。	52 52 26

アフターサービスについて
オリンパスカメラクラブのご案内

・保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、直ちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上大切に保管してください。
・本製品に関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、またはオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。
・使用説明書等にしたがったお取り扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満一ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
・保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
　また運賃諸掛かりはお客さまにおいてご負担願います。
・当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に当社では保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。
　なお、期間後であっても修理可能の場合もありますので、お買い上げの販売店または、オリンパス岡谷修理センターにお問い合わせください。

オリンパスカメラクラブでは、オリンパスカメラおよびレンズ愛用者の組織です。
オリンパスカメラクラブに入会しますと

1. 会報誌オリンパスフォトグラフィをお届けします。
2. カメラクラブ主催の撮影会、写真教室などに参加できます。またオリンパスが実施する催物に優先的に参加できます。
3. オリンパスフォトグラフィの誌上コンテスト等、作品を寄稿し発表することができます。
4. 作品通信指導などを受けることができます。
5. カメラクラブの支部活動に参加することができます。
6. ご愛用カメラ・レンズの修理料金が特別割引になります。
（ただし、オリンパス岡谷修理センターに送付（送料本人負担）いただいた場合のみ有効です。）

オリンパスカメラクラブに入会するには、オリンパスカメラおよびレンズご愛用者はどなたでも入会することができます。入会のお申込みは、カメラクラブ専用申込票（預金口座振替書）をご利用ください。また、郵便振込（振替口座番号 東京00160-9-18574 ズイコーニューズ編集室宛）もご利用できます。お申込みは常時受付けております。

入会金（申込金、新入会時のみ）……………………………… 800円
会費（購読費）1年分 ……………………………………… 4,200円
計5,000円

オリンパスカメラクラブの所在地（日曜・祝日および年末年始定休）
　オリンパスカメラクラブ／ズイコーニューズ編集室
　〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目3番1号　小川町三井ビル
　電話03（3292）1933 営業時間10：00～18：00

2003年7月1日現在

主な仕様

形　式	28mm～140mmズームレンズ内蔵全自動オートフォーカス一眼レフカメラ
使用フィルム	35mmフィルム（JIS　J135パトローネ入り、DXコード付きフィルム）
画面サイズ	24mm×36mm/パノラマフォーマット切替式
レンズ	オリンパスレンズ（フィルター使用可、フィルター径52mm） 28mm～140mm　F4.9～6.9　10群15枚（4群ズーム構成）内EDレンズ1枚
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター、 シャッタースピード プログラムモード：1/2000秒～4秒 マニュアルモード：1/2000秒～60秒
フラッシュ同調速度	シャッタースピード1/100秒以下（スーパーFP発光時は1/2000秒まで全速同調）
ピント調節	TTL位相差方式オートフォーカス（合焦音あり）、低輝度時フラッシュによるAF補助発光、有効距離6m（当社試験条件による）、フォーカスロック可能 ピント調節範囲 マクロ撮影：0.6m～∞ 通 常 撮 影：Wide　0.6m～∞ Tele　0.9m～∞
ファインダー	一眼レフ方式、倍率0.72倍（50mm時）視野率85%
視度調整	－2～＋1ディオプトリー
ファインダー表示	オートフォーカスフレーム、パノラマ指標、合焦表示、スポット表示、マクロ表示、フラッシュ発光表示（フラッシュ使用警告兼用）、露出適正外表示（露出補正表示兼用）、絞り数値情報表示、シャッタースピード数値情報表示
その他の表示	パノラマ確認ランプ
測光方式	TTL測光方式 ESP測光 中央重点平均測光 スポット測光
露出補正	±2EV（1/2ステップ）
露出モード	①プログラムAE（フルオート、ストップアクション、ポートレート、夜景、風景、）②絞り優先AE ③シャッター優先AE ④マニュアル露出
コマ数計	順算式液晶パネル表示
フィルム感度	自動設定（DXコード付きフィルムISO25・32・50・64・100・125・200・250・400・500・800・1000・1600・2000・3200、これ以外の中間値は低感度側に設定）
フィルム装填	オートローディング方式（自動空送り機構付）
フィルム巻き上げ	自動巻き上げ方式
フィルム巻き戻し	フィルム終了時自動巻き戻し、途中巻き戻し可能
セルフタイマー	電子セルフタイマー約12秒
リモコン	赤外光式リモコン（ディレイ時間3秒）
フラッシュ	発光量コントロールフラッシュマチック、スーパーFP発光、手動ポップアップ式、充電時間約0.2秒～4秒（常温・新品電池時） フラッシュ撮影範囲 WIDE：0.6m～3.7m（ISO 100ネガカラー） TELE：0.9m～4.1m（ISO 100ネガカラー） WIDE：0.6m～7.4m（ISO 400ネガカラー） TELE：0.9m～8.2m（ISO 400ネガカラー）
フラッシュモード	AUTO（低輝度自動発光）、AUTO-S（赤目現象軽減、他はAUTOと同じ）、FILL-IN（強制発光）、スーパーFP発光
バッテリーチェック	液晶パネルによる表示
電　源	3Vリチウム電池（CR123AまたはDL123A）2本使用
大きさ	幅125mm×高さ87mm×奥行124mm（突起部含まず）
質　量	655g（電池別）

■クォーツデートの主な仕様

データ写し込みの方法	フィルム裏面からの写し込み式
写し込みデータの種類	①写し込みなし ②年月日 ③月日年④日月年 ⑤日時分
写し込みデータの外部表示	液晶パネルに常時表示式
自動カレンダー機能	2032年まで自動補正

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、予めご了承ください。

その他